

平成24年12月17日

特 殊 報

長崎県病害虫防除所長

平成24年度病害虫発生予察 特殊報第2号

- 1 病害虫名 キクビスカシバ *Nokona feralis* (Leech)
- 2 発生作物 キウイフルーツ
- 3 発生場所 県内全域

4 発生確認の経過

平成24年6月、佐世保市のキウイフルーツ園で新梢(一年生枝)が枯死する症状が認められた。被害を受けた一年生枝には食入痕があり(写真1)、チョウ目幼虫が食入しているのが認められた(写真2)。また二年生以上の枝には、昨年のもと思われる脱出痕と蛹殻が確認された(写真3)。

同時期に県内のキウイフルーツ園を調査した結果、諫早市、島原市においても脱出痕と蛹殻が確認された。10月上旬には、佐世保市及び島原市でスカシバ類の成虫が捕獲されたため、農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼した結果、本県のキウイフルーツでは未発生のキクビスカシバと同定された。

本虫のキウイフルーツでの発生は、福岡県(平成15年)、愛媛県及び佐賀県(平成23年)で発生が報告されている。

5 形態および生態等

(1) 形態

成虫の開翅長は、雄が29.5~40mm、雌が38~45mmあり、胸部の前端と腹部第2節に黄色の細い帯、腹部第4節に黄色の幅広い帯がある(写真4)。

卵は小豆色で直径約1mmの平らな楕円形をしており、中央部がややくぼんでいる。若齢幼虫の頭部は褐色、胴部は淡赤褐色、終齢幼虫の頭部は赤褐色、胴部は淡桃紫色である。

(2) 生態

成虫は9~10月にかけて年1回発生する。

卵は、葉柄基部、枝分岐部等に産み付けられる。卵で越冬し、幼虫は4月頃にふ化する。蛹化は枝の内部で行われ、羽化時には蛹殻が半分表面に出た格好で残る。

マタタビ科の植物を加害するスカシバガ科の昆虫は本種のみである。本種はキウイフルーツの他に、同じマタタビ科の野生植物であるミヤママタタビ、サルナシも食餌植物として記録されている。

(3) 被害状況

5月頃から、新梢(一年生枝)の食入部に虫糞の排出が見られる。食入した枝は葉が枯死したり、伸長が抑制される等の症状となる。その後二年生以上の枝に移動するが、食入部から虫糞が排出されるため食入部位は判別しやすくなる。類似の加害をするコウモリガは、虫糞や木屑を糸で袋状に綴っており、判別が可能である。

6 防除対策

- (1) 現在、本種に登録のある薬剤はない。
- (2) 枝から出ている虫糞を目安に、幼虫が食入した枝を除去する。

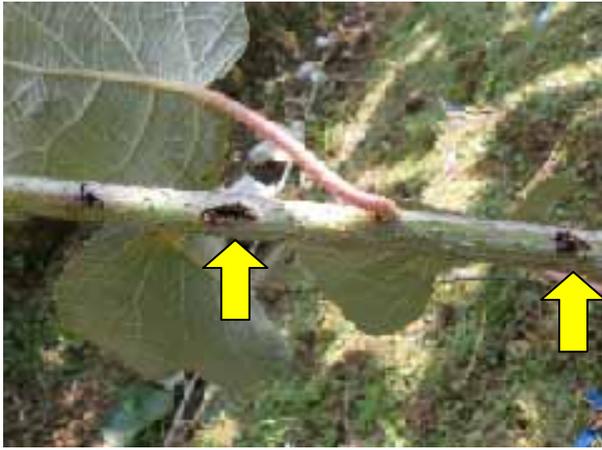


写真1 一年生枝の食入痕



写真2 一年生枝内の幼虫(7月)



写真3 蛹殻



写真4 成虫(上:雌、下:雄
佐賀県果樹試験場原図)

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。
長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027